

福島再生加速化交付金(福島定住等緊急支援)  
/福島定住等緊急支援交付金

定住緊急支援事業計画の実績に関する評価

平成29年12月  
福島県 須賀川市

(様式1)

定住緊急支援事業計画に基づく事業等の評価一覧

平成29年12月時点

1)事業の実施概要

(単位:千円)

No.	事業番号 (注1)	事業名 (注2)	地区名 施設名	基幹/ 効果促進	事業 実施 主体	全体事業費 (注3)	全体事業 期間 (注4)	年度事業費(注5)			評価 実施時期(注6)	その他
								平成25年度	平成26年度	平成27年度		
1	B - 1 - 1	須賀川市市民スポーツ広場整備事業	須賀川市市民スポーツ広場 (須賀川市中曽根地内)	基幹	市	(350,500) 350,500	25~27	(254,970) 254,970	(95,530) 95,530		H29.12	
2	C - 1 - 1	翠ヶ丘公園整備事業	翠ヶ丘公園 (須賀川市愛宕山地内)	基幹	市	(147,000) 147,000	25~27	(84,000) 84,000	(63,000) 63,000		H29.12	
3	A - 1 - 1	都市公園等遊具更新事業	和田池公園外4公園	基幹	市	(61,913) 61,913	25~26	(61,913) 61,913			H29.12	
4	A - 1 - 2	児童遊び場遊具更新事業	滝公園外15公園	基幹	市	(90,898) 90,898	25~26	(90,898) 90,898			H29.12	
5	A - 1 - 3	保育所、幼稚園遊具更新事業	第一保育所外13施設	基幹	市	(135,766) 135,766	25~26	(135,766) 135,766			H29.12	
6	B - 1 - 2	いわせ悠久の里多目的グラウンド整備事業	いわせ悠久の里	基幹	市	(45,607) 45,607	25~26	(45,607) 45,607			H29.12	
7	B - 1 - 3	いわせ悠久の里多目的グラウンド上屋新築事業	いわせ悠久の里	基幹	市	(184,733) 184,733	25~26	(184,733) 184,733			H29.12	
8	◆ C - 1 - 1 - 1	翠ヶ丘公園プレイリーダー養成事業	翠ヶ丘公園 (須賀川市愛宕山地内)	効果促進	市	(486) 486	25~26	(486) 486			H29.12	
9	◆ A - 1 - 3 - 1	保育所、幼稚園プレイリーダー養成講座	第一保育所外15施設	効果促進	市	(960) 960	25	(960) 960			H29.12	
10	A - 1 - 4	私立保育所・幼稚園遊具更新事業	プリムラ保育園外1施設	基幹	市	(42,078) 42,078	26		(42,078) 42,078		H29.12	
11	◆ A - 1 - 3 - 2	保育所・幼稚園プレイリーダー養成講座	第一保育所外17施設	効果促進	市	(1,536) 1,536	26		(1,536) 1,536		H29.12	
12	A - 1 - 5	須賀川市小学校遊具更新事業	西袋第一小学校外10施設	基幹	市	(101,064) 101,064	26~27		(101,064) 101,064		H29.12	
13	A - 1 - 6	須賀川市市民の森遊具更新事業	須賀川市市民の森 (須賀川市塩田字音森地内)	基幹	市	(42,624) 42,624	26~27		(42,624) 42,624		H29.12	
14	B - 1 - 4	須賀川市市民の森運動施設整備事業	須賀川市市民の森 (須賀川市塩田字音森地内)	基幹	市	(125,191) 125,191	26~28		(9,174) 9,174	(116,017) 116,017	H29.12	
15	◆ B - 1 - 4 - 1	須賀川市市民の森運動施設駐車場等整備事業	須賀川市市民の森 (須賀川市塩田字音森地内)	効果促進	市	(30,045) 30,045	26~28		(2,154) 2,154	(27,891) 27,891	H29.12	

2)事業計画に記載した地域の復興における支障の解決に係る目標(注7)												
	指標	従前値		目標値		実施後の値		達成度	モニタリング方法	効果発現要因 (総合所見)	今後の対応	備考(注8)
		基準年度		目標年度		確認年度						
目標1	市内小学生における平均肥満傾向児童割合の減少	11.20%	平成24年度	10.20%	平成29年度	12.76%	平成29年度	-156.0%	須賀川市教育委員会の調査	1・2年生においては目標値を大きく下回ることができた。震災の影響で平成26年度には一時14.1%まで上昇したが、12%台まで回復してきた。	各種研修会や学校訪問等で、運動する機会の確保や食育指導の推進、生活習慣の改善について各校に指導を継続し、今後も目標達成に向けてフォローアップを行う。	全事業
目標2	体力・運動能力調査の48項目(小学校1～3年、男女、8種目)の中で、全国平均を上回った項目の割合	31.30%	平成25年度	66.7%	平成29年度	37.50%	平成29年度	17.5%	須賀川市教育委員会の調査	握力と反復横とびではほとんどの学年で全国平均を上回っており、少しずつではあるが体カテストの結果は向上している。	各種研修会や学校訪問等で、運動する機会を確保するよう各校に指導を継続し、今後も目標達成に向けてフォローアップを行う。	全事業
目標3												
目標4												

3)その他目標(2)に掲げたもの以外の目標(注7)												
	指標	従前値		目標値		実施後の値		達成度	モニタリング方法	効果発現要因 (総合所見)	今後の対応	備考(注8)
		基準年度		目標年度		確認年度						
目標1	須賀川市市民スポーツ広場利用者数の増加	24,167	平成25年度	25,832	平成28年度	26,184	平成28年度	121.1%	施設貸出管理簿	夜間照明の設置により、利用可能な時間が延びたことが要因と思われる。	施設の指定管理者と連携して施設の周知を進め、さらなる利用者の増加に努めたい	B-1-1
目標2	いわせ悠々の里多目的グラウンド利用者数	未整備		1,800	平成27年度	2,184	平成28年度	121.3%	施設貸出管理簿	全天候型の施設整備により、施設の利便性が向上したことが要因と思われる。(全体7,329人)	施設のPR動画を作成しホームページに掲載するなど、広く周知することで、更なる利用者の増加に努めたい。	B-1-2 B-1-3
目標3	須賀川市市民の森利用者数	5,200	平成21年度～25年度平均	5,200	平成29年度	6,585	平成28年度	126.6%	施設貸出管理簿	本事業に合わせて実施した改修工事等により施設全体の利便性が向上したことが要因と思われる。	施設の指定管理者と連携して施設の周知を進めるほか、施設の特徴を生かした活動プログラムを検討するなど、さらなる利用者の増加に努めたい。	B-1-4 ◆B-1-4-1

(注1)「事業番号」は、基幹事業については、「(制度要綱別表の番号)-(同一事業計画中の同種の事業の通し番号)」、効果促進事業については、「◆(最も関連する基幹事業の事業番号)-(最も関連する基幹事業ごとの通し番号)」となるよう記載する。

(注2)「事業名」は定住緊急支援事業計画に記載された事業名を記載する。

(注3)「全体事業費」は、「全体事業期間」を通じての全ての事業費と交付対象事業費をそれぞれ記載する(交付対象事業費は()で記載)。

(注4)「全体事業期間」は、事業着手年度から全ての事業内容が完了する年度までを記載する。

(注5)「年度事業費」は、事業着手から事業完了年度までの各年度の交付対象事業費と全ての事業費をそれぞれ記載する(交付対象事業費は()で記載)。

(注6)「評価実施時期」は、定住緊急支援事業計画に基づく事業等が完了した日の属する年度の翌年度の12月末日までの実施した時期を記載する。

(注7)2)には定住緊急支援計画に記載した内容を、3)には定住緊急支援計画に全く記載をしていないものの、今回の整備により期待される効果があれば記載する。

なお、A-1,B-1,2,C-1事業については、子どもたちが十分に運動する機会の確保の観点、C-2,C-3については子育て世帯の定住に資する観点から、維持管理や運営の視点、ソフト事業との相乗効果などの面も含め目標を記載する。

(注8)「備考」の欄には、当該目標の評価対象となる事業番号を記載する。

(様式2)

# 個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成25～27年度	交付対象事業費	350,500 千円
市町村名	須賀川市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	B-1-1

## 1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

- 市民スポーツ広場に屋外夜間照明設備や屋根付休憩所等を設置することにより、年間を通じ、日中から夜間にかけて幅広い利用時間帯を設定し、運動できる場を整備する。
- 市内小学生(1年～4年)における平均肥満傾向児童割合の減少
- 須賀川市市民スポーツ広場の小中学生利用者数の増加

### 【区域全体図】



### <B-1-1: 須賀川市市民スポーツ広場整備事業>

#### (1) 事業概要

須賀川市の市街地中心部に近接する多目的のスポーツ広場が夜間利用できるよう、必要な施設を整備し、子どもの運動機会の確保を図る。

- 【平成25年度: 第1回申請】 254,970千円  
〔設置施設〕 屋外夜間照明設備(鉄塔8基(投光器6灯) 鉄塔4基(投光器12灯))  
〔設置場所〕 須賀川市市民スポーツ広場(32,000㎡)  
〔実施設計業務〕 クラブハウス
- 【平成26年度: 第5回申請】 95,530千円  
〔設置施設〕 クラブハウス  
〔設置場所〕 須賀川市市民スポーツ広場  
〔概要〕 2階建て(1階SRC造、2階S造)  
建築面積 189.31㎡ 床面積235.76㎡(1階 116.76㎡、2階 119.0㎡)

#### (2) 事業の実施状況

- ・屋外夜間照明 平成26年6月19日着工平成27年1月13日竣工 平成27年3月13日供用開始
  - ・クラブハウス 平成26年11月14日着工平成27年6月30日竣工 平成27年7月1日供用開始
- 利用時間は午前9時から夜9時まで。施設には会議室、音響施設やシャワー室が整備されており、市民スポーツの利用者がスポーツ大会のミーティングや休憩に利用している。利用状況は以下の効果・変化のとおり。

#### (3) 人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

- ・平成22年国勢調査結果による本市の人口が79,267人であったのに対し、平成26年3月時点での人口は77,146人と、この間、2,121人の人口減少となっていた。(出典:統計すかがわ) さらに、平成26年4月時点での市外への避難者数は462人、うち18歳未満が150人と、減少人口の1/3を占めていた。(全国避難者情報システム) ※ 平成24年10月時点の避難者数:2,037人
- ・平成29年8月時点での市外への避難者数は437人であり、避難者数は減少傾向にある。(全国避難者情報システム)
- ・遊具の利用状況や現在の外遊び時間及び遊具更新前と後を比較した外遊び時間の変化について調査したところ、子ども元気復活交付金を活用し、遊具更新をした遊具を使って遊んだことがある保育園、幼稚園児、小学校児童の割合は82.8%であり高い利用率となった。しかし、外遊び時間については、1時間未満の児童が78.0%となり、全国平均値を下回る結果となった。また、遊具更新後に外遊び時間が長くなった割合は18.4%だが、各施設間で差が生じている。現在、市内全地域において外遊びは制限されておらず、外遊びや屋外活動メニューを工夫する必要もあると思われる(お子さんの外遊び状況に関するアンケート)
- ・市内小学生における平均肥満傾向児童割合は12.76%で、高学年になるほど肥満割合が高くなる傾向がある。特に小学校5年生男子の肥満率が19.8%と高い値となっている。学年が低いほど良化しており、小学1年から4年生の肥満割合については平成24年度は11.3%だったが、平成28年度は10.8%となった。(H28定期健康診断結果に基づく市町村肥満傾向児童生徒数調査)
- ・小学生の運動能力を分析するTスコアによる全国平均との比較では、48種目中18種目が平均値を超えている。平成24年度と平成28年度を比べると6.2%向上している。肥満傾向や運動能力の低下は、外遊びが制限されてきたことにより、運動習慣が定着していないことも想定されるが外遊びが制限されなくなり、遊具などを使い遊ぶ機会が増えたことが指標向上に寄与したと思われる。(H28市内小学校体力テスト分析結果)

#### (4) その他

平成29年11月10日開催のまちづくり市民懇談会にて、事業の実施状況等について有識者からの意見聴取を実施した。委員からは、さらなる利用促進を継続してほしいなどの意見があった。

### 事業計画推進による効果・変化(注2)

○スポーツ広場の利用者は平成25年度で24,167人、平成28年度で26,184人と2,017人増加しており、利用者数増加の目標達成率も121.1%となった。また、設置施設のスポーツ少年団や中学生の部活動での利用者は平成27年度で3,893人、平成28年度で9,843人と5,950人増加している。

### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

- 施設の指定管理者と連携して施設の周知を進め、さらなる利用者の増加に努める。
- 市ホームページによる施設利用の周知や教育機関と連携し、運動機会の確保を促進する。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

# 個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成25～27年度	交付対象事業費	147,486 千円
市町村名	須賀川市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	C-1-1、◆C-1-1-1

## 1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

○翠ヶ丘公園のわんぱく広場に大型遊具や、休憩場所としてのベンチを設置し、池上町遊園地の再整備を行うことにより、特に運動習慣の定着をはかる必要のある時期の子どもたちが、安心して屋外で運動する機会を確保する。さらに、わんぱく広場に隣接する敷地において利用者のための駐車場を整備することにより、市内各地区からのアクセスを改善し、利便性を向上させる。

○市内小学生(1年～4年)における平均肥満傾向児童割合の減少

○翠ヶ丘公園利用児童数の増加

### 【区域全体図】



わんぱく広場大型遊具



池上町遊園地



駐車場整備



### <C-1-1: 翠ヶ丘公園整備事業>【事業詳細】

#### (1) 事業概要

- ・わんぱく広場 大型遊具設置 1基、ベンチ設置 4基
- ・池上町遊園地 広場改修 A=4,500m<sup>2</sup>、遊具設置 2基、ベンチ設置 2基
- ・駐車場整備 A=3,228m<sup>2</sup>、進入路 1箇所

#### 【関連効果促進事業 ◆C-1-1-1: 翠ヶ丘公園プレイリーダー養成事業】

基幹事業として大型遊具を整備する翠ヶ丘公園内で、効果促進事業として「プレイリーダー養成講座」を3回開催することで、保護者や保育園、幼稚園教諭等へ、遊具の安全な遊び方や福島の実情に合わせた外遊びの方法を周知し、子どもの運動機会確保に繋げる。

- ①テーマ「遊具の安全な遊び方」講師:インストラクター ②テーマ「福島の子どもの外遊び支援」講師:NPO 法人等
- 対象:一般参加、児童クラブ、保育園、幼稚園等の先生

#### (2) 事業の実施状況

翠ヶ丘公園わんぱく広場に設置した大型遊具については、平成26年6月末に完成し、平成26年7月7日にオープンセレモニーを行い、供用開始し、年間を通じて、常時開放している。また、翠ヶ丘公園池上遊園地の広場改修、遊具設置、ベンチ設置については、平成26年6月末に完成し供用開始した。

児童や未就学児にとって魅力ある大型複合遊具や、休憩施設の整備、また、アクセスの良い駐車場の整備により、保護者を含め親子ぐるみでの利用を促進することができており、天候の良い休日には、一日当たり延べ約400名程の利用がある。

#### (3) 人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

- ・平成22年国勢調査結果による本市の人口が79,267人であったのに対し、平成26年3月時点での人口は77,146人と、この間、2,121人の人口減少となっていた。(出典:統計すかがわ) さらに、平成26年4月時点での市外への避難者数は462人、うち18歳未満が150人と、減少人口の1/3を占めていた。(全国避難者情報システム) ※ 平成24年10月時点の避難者数:2,037人
- ・平成29年8月時点での市外への避難者数は437人であり、避難者数は減少傾向にある。(全国避難者情報システム)
- ・遊具の利用状況や現在の外遊び時間及び遊具更新前後を比較した外遊び時間の変化について調査したところ、子ども元氣復活交付金を活用し、遊具更新をした遊具を使って遊んだことがある保育園、幼稚園児、小学校児童の割合は82.8%であり高い活用率となった。しかし、外遊び時間については、1時間未満の児童が78.0%となり、全国平均値を下回る結果となった。また、遊具更新後に外遊び時間が長くなった割合は18.4%だが、各施設間で差が生じている。現在、市内全地域において外遊びは制限されておらず、外遊びや屋外活動メニューを工夫する必要もあると思われる(お子さんの外遊び状況に関するアンケート)
- ・市内小学生における平均肥満傾向児童割合は12.76%で、高学年になるほど肥満割合が高くなる傾向がある。特に小学校5年生男子の肥満率が19.8%と高い値となっている。学年が低いほど良化しており、小学1年から4年生の肥満割合については平成24年度は11.3%だったが、平成28年度は10.8%となった。(H28定期健康診断結果に基づく市町村肥満傾向児童生徒数調査)
- ・小学生の運動能力を分析するTスコアによる全国平均との比較では、48種目中18種目が平均値を超えている。平成24年度と平成28年度を比べると6.2%向上している。肥満傾向や運動能力の低下は、外遊びが制限されてきたことにより、運動習慣が定着していないことも想定されるが外遊びが制限されなくなり、遊具などを使い遊ぶ機会が増えたことが指標向上に寄与したと思われる。(H28市内小学校体力テスト分析結果)

#### (4) その他

平成29年11月10日開催のまちづくり市民懇談会にて、事業の実施状況等について有識者からの意見聴取を実施した。委員からは、さらなる利用促進を継続してほしいなどの意見があった。

### 事業計画推進による効果・変化(注2)

○翠ヶ丘公園のわんぱく広場並びに池上町遊園地に整備した大型遊具等の利用により、子どもたちの運動機会が増加した。(平成28年度小1～小4年生の肥満傾向児童割合は平成24年度と比較し、0.5%減少)。

○翠ヶ丘公園のわんぱく広場並びに池上町遊園地において、児童や未就学児にとって魅力ある大型複合遊具や、休憩施設の整備、また、アクセスの良い駐車場の整備により、保護者を含め親子ぐるみでの利用を促進することができており、天候のよい休日には、一日当たり延べ約400名程の利用があり、大型遊具等の利用を目的とした公園利用者が増加している。

### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

○翠ヶ丘公園のわんぱく広場並びに池上町遊園地の遊具設置を実施したことについて、市HP、広報誌(回覧板、掲示板)により周知を図ることで、利用したことのない児童や未就学児の利用を促進させ、運動能力の向上を図る。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

# 個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成25～26年度	交付対象事業費	61,913千円
市町村名	須賀川市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	A-1-1

## 1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

- 須賀川市内5箇所の都市公園の遊具33基を更新することにより、特に運動習慣の定着をはかる必要のある時期の子どもたちが、安心して屋外で運動する機会を確保する。
- 市内小学生(1年～4年)における平均肥満傾向児童割合の減少
- 都市公園利用児童数の増加

### 【区域全体図】

別紙のとおり

和田池公園



岡東公園



影沼公園



小作田公園



あおば公園



### <A-1-1: 都市公園等遊具更新事業>

#### 【事業詳細】

##### (1) 事業概要

和田池公園外4公園について、下記のとおり33基の遊具更新を行う。

	公園名	遊具数	遊具更新	遊具撤去
1	和田池公園	6基	6基	
2	岡東公園	8基	6基	2基
3	影沼公園	6基	6基	
4	小作田公園	7基	6基	1基
5	あおば公園	6基	6基	
	計	33基	30基	3基

##### (2) 事業の実施状況

和田池公園外4公園の遊具更新については、平成26年7月までに完成し、供用開始した。和田池公園外4公園の遊具を更新したことにより、児童や未就学児の屋外での運動機会の場が確保され、親子ぐるみでの利用が促進されている。また、これまで公園等で実施していた子ども育成会のスポーツ行事の活動休止や秋祭りの規模も縮小されている状況にあったが徐々に改善されつつある。

##### (3) 人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

- ・平成22年国勢調査結果による本市の人口が79,267人であったのに対し、平成26年3月時点での人口は77,146人と、この間、2,121人の人口減少となっていた。(出典:統計すかがわ) さらに、平成26年4月時点での市外への避難者数は462人、うち18歳未満が150人と、減少人口の1/3を占めていた。(全国避難者情報システム) ※平成24年10月時点の避難者数:2,037人
- ・平成29年8月時点での市外への避難者数は437人であり、避難者数は減少傾向にある。(全国避難者情報システム)
- ・遊具の利用状況や現在の外遊び時間及び遊具更新前後を比較した外遊び時間の変化について調査したところ、子ども元気復活交付金を活用し、遊具更新をした遊具を使って遊んだことがある保育園、幼稚園児、小学校児童の割合は82.8%であり高い活用率となった。しかし、外遊び時間については、1時間未満の児童が78.0%となり、全国平均値を下回る結果となった。また、遊具更新後に外遊び時間が長くなった割合は18.4%だが、各施設間で差が生じている。現在、市内全地域において外遊びは制限されておらず、外遊びや屋外活動メニューを工夫する必要もあると思われる(お子さんの外遊び状況に関するアンケート)
- ・市内小学生における平均肥満傾向児童割合は12.76%で、高学年になるほど肥満割合が高くなる傾向がある。特に小学校5年生男子の肥満率が19.8%と高い値となっている。学年が低いほど良化しており、小学1年から4年生の肥満割合平成24年度は11.3%だったが、平成28年度は10.8%となった。(H28定期健康診断結果に基づく市町村肥満傾向児童生徒数調査)
- ・小学生の運動能力を分析するTスコアによる全国平均との比較では、48種目中18種目が平均値を超えている。平成24年度と平成28年度を比べると6.2%向上している。肥満傾向や運動能力の低下は、外遊びが制限されてきたことにより、運動習慣が定着していないことも想定されるが外遊びが制限されなくなり、遊具などを使い遊ぶ機会が増えたことが指標向上に寄与したと思われる。(H28市内小学校体力テスト分析結果)

##### (4) その他

平成29年11月10日開催のまちづくり市民懇談会にて、事業の実施状況等について有識者からの意見聴取を実施した。

### 事業計画推進による効果・変化(注2)

- 和田池公園外4公園に整備、更新した遊具の利用により、子どもたちの運動機会が増加した。(平成28年度小1～小4年生の肥満傾向児童割合は平成24年度と比較し、0.5%減少)。
- 和田池公園外4公園において、児童や未就学児にとって魅力ある遊具の整備により、保護者を含め親子ぐるみでの利用を促進することができおり、また放射性物質への不安による外遊び制限がなくなったことで震災後と比べ利用者数が増加している。アンケートによると更新遊具で遊んだことがある割合は、保育所、幼稚園、小学校全体で82.8%となることから利用者数は増加していると思われる。

### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

- 遊具更新を実施したことについて、市HP、広報誌(回覧板、掲示板)により周知を図ることで、利用したことのない児童や未就学児の利用を促進させ、運動能力の向上を図る。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

# 個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成25～26年度	交付対象事業費	90,898 千円
市町村名	須賀川市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	A-1-2

## 1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

- 須賀川市内16箇所の児童遊び場の遊具65基を更新することにより、特に運動習慣の定着をはかる必要のある時期の子どもたちが、安心して屋外で運動する機会を確保する。
- 市内小学生(1年～4年)における平均肥満傾向児童割合の減少
- 児童遊び場利用児童数の増加

### 【区域全体図】

別紙のとおり

### <A-1-2: 児童遊び場遊具更新事業>

#### 【事業詳細】

##### (1) 事業概要

滝公園外15公園について、下記のとおり65基の遊具更新を行う。

	整備箇所名	計		整備箇所名	計		整備箇所名	計		整備箇所名	計
1	滝公園	5	5	町守屋広場	4	9	白山公園	2	13	大桑原児童遊び場	2
2	志茂公園	2	6	今泉児童遊び場	5	10	館ヶ岡東児童遊び場	7	14	江持わんぱく広場	3
3	上江花公園	5	7	東部公園	3	11	福ふれあい広場	4	15	雨田わんぱく広場	3
4	堀込公園	3	8	梅田広場	5	12	越久児童遊び場	7	16	前田川わんぱく広場	5
<b>計</b>											<b>65</b>

##### (2) 事業の実施状況

アンケートで「遊具更新で遊んだことがある」と答えた方が82.3%と、更新した遊具は広く活用されている。

- ・工事期間 平成26年1月21日 ～ 平成26年8月29日
- ・完成時期 平成26年8月29日
- ・供用開始 平成26年9月1日

##### (3) 人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

- ・平成22年国勢調査結果による本市の人口が79,267人であったのに対し、平成26年3月時点での人口は77,146人と、この間、2,121人の人口減少となっていた。(出典: 統計すかがわ) さらに、平成26年4月時点での市外への避難者数は462人、うち18歳未満が150人と、減少人口の1/3を占めていた。(全国避難者情報システム) ※ 平成24年10月時点の避難者数: 2,037人
- ・平成29年8月時点での市外への避難者数は437人であり、避難者数は減少傾向にある。(全国避難者情報システム)
- ・遊具の利用状況や現在の外遊び時間及び遊具更新前後を比較した外遊び時間の変化について調査したところ、子ども元気復活交付金を活用し、遊具更新をした遊具を使って遊んだことがある保育園、幼稚園児、小学校児童の割合は82.8%であり高い活用率となった。しかし、外遊び時間については、1時間未満の児童が78.0%となり、全国平均値を下回る結果となった。また、遊具更新後に外遊び時間が長くなった割合は18.4%だが、各施設間で差が生じている。現在、市内全地域において外遊びは制限されておらず、外遊びや屋外活動メニューを工夫する必要もあると思われる(お子さんの外遊び状況に関するアンケート)
- ・市内小学生における平均肥満傾向児童割合は12.76%で、高学年になるほど肥満割合が高くなる傾向がある。特に小学校5年生男子の肥満率が19.8%と高い値となっている。学年が低いほど良化しており、小学1年から4年生の肥満割合平成24年度は11.3%だったが、平成28年度は10.8%となった。(H28定期健康診断結果に基づく市町村肥満傾向児童生徒数調査)
- ・小学生の運動能力を分析するTスコアによる全国平均との比較では、48種目中18種目が平均値を超えている。平成24年度と平成28年度を比べると6.2%向上している。肥満傾向や運動能力の低下は、外遊びが制限されてきたことにより、運動習慣が定着していないことも想定されるが外遊びが制限されなくなり、遊具などを使い遊ぶ機会が増えたことが指標向上に寄与したと思われる。(H28市内小学校体力テスト分析結果)

##### (4) その他

平成29年11月10日開催のまちづくり市民懇談会にて、事業の実施状況等について有識者からの意見聴取を実施した。

### 事業計画推進による効果・変化(注2)

- 平成28年度の小学1年～4年生の平均肥満児童割合について、震災直後の平成24年度と比較して、男子は10.66%(1.11ポイント減)、女子は11.04%(0.13ポイント増加)となっており、全体では0.5%の減少となっている。(市町村別肥満傾向児童生徒数調査)
- 遊具の更新により、外遊びの時間が長くなったと答えた方が18.4%で遊具更新による屋外遊びの時間が増えた。外遊びや屋外活動時間が長くなった割合が14.1%の小学生に比べて、保育所、幼稚園児の方が26.8%と高い割合となった。(お子さんの外遊び状況に関するアンケート 平成28年3月4日(金)～3月18日(金)実施)

### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

- 遊具更新により外遊びに費やす時間は増加し、肥満児童の割合については横ばいとなっているため、より外遊びの時間増を図った取り組み(周知活動等)を考え、運動機会の増加を図る。

(注1) 様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

# 個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成25～26年度	交付対象事業費	138,262 千円
市町村名	須賀川市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	A-1-3、◆A-1-3-1、◆A-1-3-2

## 1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

- 須賀川市内14箇所の保育所及び幼稚園の遊具83基を更新することにより、特に運動習慣の定着をはかる必要のある時期の子どもたちが、安心して屋外で運動する機会を確保する。
- 市内小学生(1年～4年)における平均肥満傾向児童割合の減少
- 市内未就学児童の運動習慣の定着(外遊び回数の増加)

### 【区域全体図】

別紙のとおり

### <A-1-3: 保育所、幼稚園遊具更新事業>

#### 【事業詳細】

(1) 事業概要 第一保育所外13施設において、下記のとおり83基の遊具更新を行う。

	整備箇所名	計	整備箇所名	計	整備箇所名	計	整備箇所名	計
1	第一保育所	5	ぼたん保育園	6	白江こども園	10	仁井田幼稚園	7
2	第二保育所	5	白鳩保育園	2	白方こども園	8	長沼幼稚園	8
3	第三保育所	3	長沼保育所	9	稲田幼稚園	9	計	83
4	うつみね保育園	3	長沼東保育所	4	小塩江幼稚園	4		

#### 【関連効果促進事業 ◆A-1-3-1、◆A-1-3-2: 保育所、幼稚園プレイリーダー養成講座】

基幹事業として遊具更新をする保育所・幼稚園内で、効果促進事業として保育士や教員等を対象に「プレイリーダー養成講座」を平成25年度に16施設、平成26年度に15施設で実施し、遊具の安全な遊び方や危険のない指導方法について、子ども達を交えた実技講習など、指導的役割を担う人材の育成へ繋がる取組を実施した。

#### (2) 事業の実施状況

更新が完了した施設から、園児の外遊びでの使用だけでなく、施設ごとに曜日と時間を決めて園庭を開放し、地域に住む子どもたちも利用できるようにした。・工事期間 平成26年1月21日～平成26年8月8日 ・供用開始 平成26年8月11日

#### (3) 人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

・平成22年国勢調査結果による本市の人口が79,267人であったのに対し、平成26年3月時点での人口は77,146人と、この間、2,121人の人口減少となっていた。(出典:統計すかがわ) さらに、平成26年4月時点での市外への避難者数は462人、うち18歳未満が150人と、減少人口の1/3を占めていた。(全国避難者情報システム) ※ 平成24年10月時点の避難者数:2,037人

・平成29年8月時点での市外への避難者数は437人であり、避難者数は減少傾向にある。(全国避難者情報システム)

・遊具の利用状況や現在の外遊び時間及び遊具更新前後を比較した外遊び時間の変化について調査したところ、子ども元気復活交付金を活用し、遊具更新をした遊具を使って遊んだことがある保育園、幼稚園児、小学校児童の割合は82.8%であり高い活用率となった。しかし、外遊び時間については、1時間未満の児童が78.0%となり、全国平均値を下回る結果となった。また、遊具更新後に外遊び時間が長くなった割合は18.4%だが、各施設間で差が生じている。現在、市内全地域において外遊びは制限されておらず、外遊びや屋外活動メニューを工夫する必要もあると思われる(お子さんの外遊び状況に関するアンケート)

・市内小学生における平均肥満傾向児童割合は12.76%で、高学年になるほど肥満割合が高くなる傾向がある。特に小学校5年生男子の肥満率が19.8%と高い値となっている。学年が低いほど良化しており、小学1年から4年生の肥満割合については平成24年度は11.3%だったが、平成28年度は10.8%となった。(H28定期健康診断結果に基づく市町村肥満傾向児童生徒数調査)

・小学生の運動能力を分析するTスコアによる全国平均との比較では、48種目中18種目が平均値を超えている。平成24年度と平成28年度を比べると6.2%向上している。肥満傾向や運動能力の低下は、外遊びが制限されてきたことにより、運動習慣が定着していないことも想定されるが外遊びが制限されなくなり、遊具などを使い遊ぶ機会が増えたことが指標向上に寄与したと思われる。(H28市内小学校体力テスト分析結果)

(4) その他 平成29年11月10日開催のまちづくり市民懇談会にて、事業の実施状況等について有識者からの意見聴取を実施した。委員からは、さらなる利用促進を継続してほしいなどの意見があった。

### 事業計画推進による効果・変化(注2)

○遊具を更新した施設でのアンケート調査では、更新前と比べて外遊びの時間が長くなったと回答した保護者の割合が26.8%、短くなったが1.8%、変わらないが68.5%でありであり、一定の成果が得られていると考える。(お子さんの外遊び状況に関するアンケート 平成28年3月4日(金)～3月18日(金)実施)

### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

○各施設において外遊びの時間を設けるなど、運動習慣の定着を図っているところであり、今後も継続して取り組む。

(注1) 様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

# 個別事業等実績評価シート

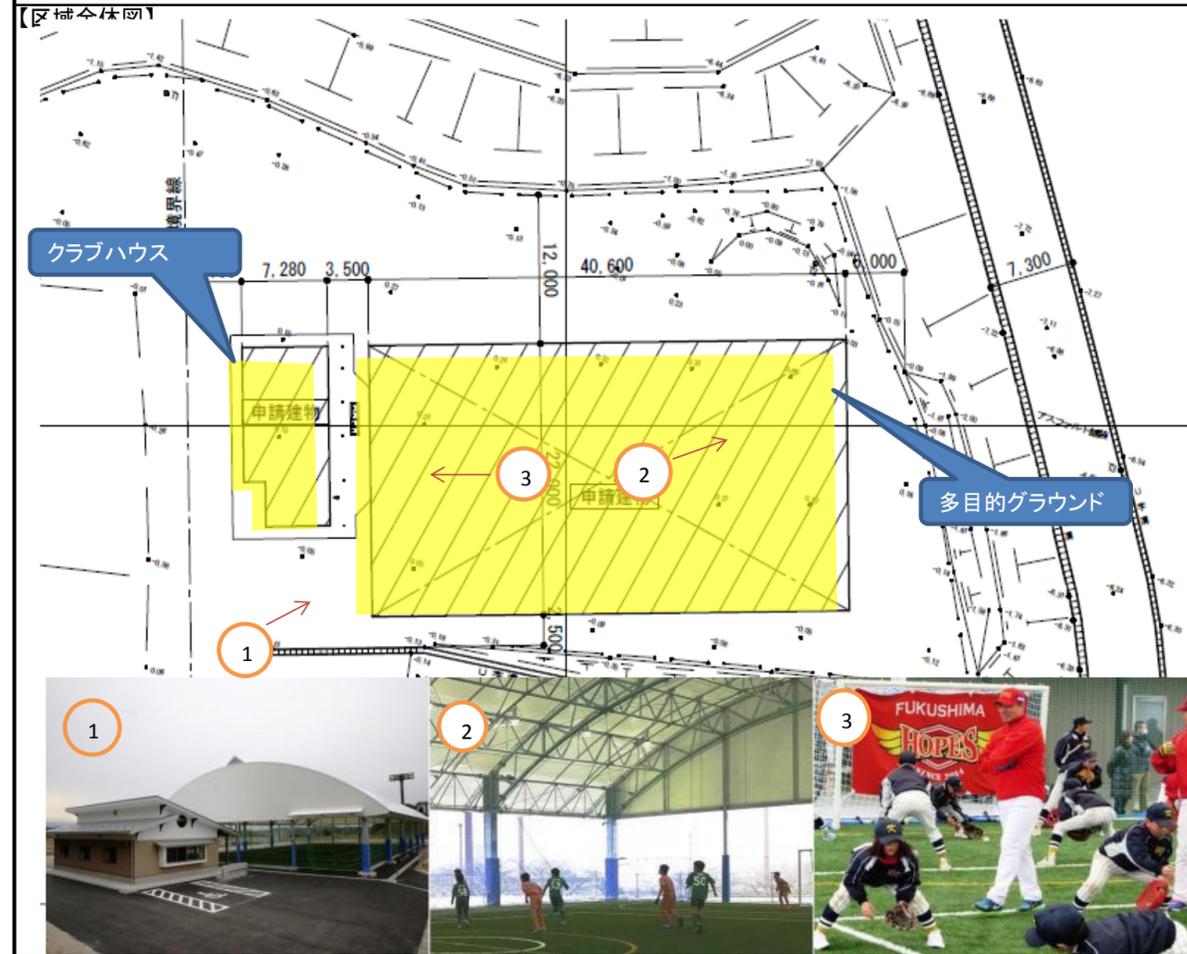
平成29年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成25～26年度	交付対象事業費	45,607千円
市町村名	須賀川市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	B-1-2

## 1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

- いわせ悠久の里内に屋外運動施設を整備することにより、特に運動習慣の定着をはかる必要のある時期の子どもたちが、安心して屋外で運動する機会を確保する。
- 市内小学生(1年～4年)における平均肥満傾向児童割合の減少
- いわせ悠久の里多目的グラウンド利用者数



### <B-1-2: いわせ悠久の里多目的グラウンド整備事業>

#### 【事業詳細】

##### (1) 事業概要

須賀川市西部地域の総合スポーツレクリエーション施設「いわせ悠久の里」に子どもを対象とする『全天候型スポーツ施設』を整備し、地域定住、地域振興を通して子どもの運動機会の確保を図る。

##### 【多目的グラウンド整備事業】

多目的グラウンド: L=35m×W=18m の一面、人工芝、照明器具(天井設置)  
附属施設: 管理棟(ホール、男女別更衣室・トイレ、多目的トイレ)1棟、木造1階、床面積86.12㎡

##### 【多目的グラウンド上屋新築事業】

建築面積: 880㎡(L=40m×W=22m×H=9.2m)、上屋構造材: 鋼管、屋根材: 幕材使用、外壁: 開閉式ネット

##### (2) 事業の実施状況

- ・施設は、平成26年12月完成、平成27年1月に供用を開始したもので、須賀川市体育施設条例に基づき施設運営を行っている。
- ・近隣のスポーツ少年団が利用しており、平成28年度では、小学生以下で2,184人が利用している。
- ・休場日は、毎週月曜日(祝日の場合は、その翌日)で、午前9時00分から午後9時00分までが使用可能である。

##### (3) 人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

- ・平成22年国勢調査結果による本市の人口が79,267人であったのに対し、平成26年3月時点での人口は77,146人と、この間、2,121人の人口減少となっていた。(出典: 統計すかがわ) さらに、平成26年4月時点での市外への避難者数は462人、うち18歳未満が150人と、減少人口の1/3を占めていた。(全国避難者情報システム) ※ 平成24年10月時点の避難者数: 2,037人
- ・平成29年8月時点での市外への避難者数は437人であり、避難者数は減少傾向にある。(全国避難者情報システム)
- ・遊具の利用状況や現在の外遊び時間及び遊具更新前後を比較した外遊び時間の変化について調査したところ、子ども元気復活交付金を活用し、遊具更新をした遊具を使って遊んだことがある保育園、幼稚園児、小学校児童の割合は82.8%であり高い活用率となった。しかし、外遊び時間については、1時間未満の児童が78.0%となり、全国平均値を下回る結果となった。また、遊具更新後に外遊び時間が長くなった割合は18.4%だが、各施設間で差が生じている。現在、市内全域において外遊びは制限されず、外遊びや屋外活動メニューを工夫する必要もあると思われる(お子さんの外遊び状況に関するアンケート)
- ・市内小学生における平均肥満傾向児童割合は12.76%で、高学年になるほど肥満割合が高くなる傾向がある。特に小学校5年生男子の肥満率が19.8%と高い値となっている。学年が低いほど良化しており、小学1年から4年生の肥満割合については平成24年度は11.3%だったが、平成28年度は10.8%となった。(H28定期健康診断結果に基づく市町村肥満傾向児童生徒数調査)
- ・小学生の運動能力を分析するTスコアによる全国平均との比較では、48種目中18種目が平均値を超えている。平成24年度と平成28年度を比べると6.2%向上している。肥満傾向や運動能力の低下は、外遊びが制限されてきたことにより、運動習慣が定着していないことも想定されるが外遊びが制限されなくなり、遊具などを使い遊ぶ機会が増えたことが指標向上に寄与したと思われる。(H28市内小学校体力テスト分析結果)

##### (4) その他

平成29年11月10日開催のまちづくり市民懇談会にて、事業の実施状況等について有識者からの意見聴取を実施した。委員からは、さらなる利用促進を継続してほしいなどの意見があった。

### 事業計画推進による効果・変化(注2)

○運動広場を利用するスポーツ等において、雨天の場合、団体は各小学校の体育館に使用申請をして利用している状況であった。当該施設の完成により各種スポーツ少年団等による練習日の日程調整が容易になり利用が増えてきた。平成28年度では、小学生以下で2,184人が利用している。地元の岩瀬FC、隣接地区のFCグラート、須賀川リトルリーグや隣接市のスポーツ少年団等が利用している。

### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

○市広報誌等により、未就学児童の利用を促進する。また、屋外での運動や遊びの楽しみ方などを周知し、運動機会の増加により体力の向上を図る。

(注1) 様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

# 個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成25～26年度	交付対象事業費	184,733 千円
市町村名	須賀川市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	B-1-3

## 1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

- いわせ悠久の里内に屋外運動施設を整備することにより、特に運動習慣の定着をはかる必要のある時期の子どもたちが、安心して屋外で運動する機会を確保する。
- 市内小学生(1年～4年)における平均肥満傾向児童割合の減少
- いわせ悠久の里多目的グラウンド利用者数



### <B-1-3: いわせ悠久の里多目的グラウンド上屋新築事業>

#### 【事業詳細】

##### (1) 事業概要

須賀川市西部地域の総合スポーツレクリエーション施設「いわせ悠久の里」に子どもを対象とする『全天候型スポーツ施設』を整備し、地域定住、地域振興を通して子どもの運動機会の確保を図る。

##### 【多目的グラウンド整備事業】

多目的グラウンド: L=35m×W=18m の一面、人工芝、照明器具(天井設置)

附属施設: 管理棟(ホール、男女別更衣室・トイレ・多目的トイレ)1棟、木造1階床面積86.12 m<sup>2</sup>

##### 【多目的グラウンド上屋新築事業】

建築面積: 880 m<sup>2</sup>(L=40m×W=22m×H=9.2m)、上屋構造材: 鋼管、屋根材: 幕材使用、外壁: 開閉式ネット

##### (2) 事業の実施状況

- ・施設は、平成26年12月完成、平成27年1月に供用を開始したもので、須賀川市体育施設条例に基づき施設運営を行っている。
- ・近隣のスポーツ少年団が利用しており、平成28年度では、小学生以下で2,184人が利用している。
- ・休場日は、毎週月曜日(祝日の場合は、その翌日)で、午前9時00分から午後9時00分までが使用可能である。

##### (3) 人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

- ・平成22年国勢調査結果による本市の人口が79,267人であったのに対し、平成26年3月時点での人口は77,146人と、この間、2,121人の人口減少となっていた。(出典: 統計すかがわ) さらに、平成26年4月時点での市外への避難者数は462人、うち18歳未満が150人と、減少人口の1/3を占めていた。(全国避難者情報システム) ※ 平成24年10月時点の避難者数: 2,037人
- ・平成29年8月時点での市外への避難者数は437人であり、避難者数は減少傾向にある。(全国避難者情報システム)
- ・遊具の利用状況や現在の外遊び時間及び遊具更新前と後を比較した外遊び時間の変化について調査したところ、子ども元気復活交付金を活用し、遊具更新をした遊具を使って遊んだことがある保育園、幼稚園児、小学校児童の割合は82.8%であり高い活用率となった。しかし、外遊び時間については、1時間未満の児童が78.0%となり、全国平均値を下回る結果となった。また、遊具更新後に外遊び時間が長くなった割合は18.4%だが、各施設間で差が生じている。現在、市内全地域において外遊びは制限されおらず、外遊びや屋外活動メニューを工夫する必要もあると思われる(お子さんの外遊び状況に関するアンケート)
- ・市内小学生における平均肥満傾向児童割合は12.76%で、高学年になるほど肥満割合が高くなる傾向がある。特に小学校5年生男子の肥満率が19.8%と高い値となっている。学年が低いほど良化しており、小学1年から4年生の肥満割合平成24年度は11.3%だったが、平成28年度は10.8%となった。(H28定期健康診断結果に基づく市町村肥満傾向児童生徒数調査)
- ・小学生の運動能力を分析するTスコアによる全国平均との比較では、48種目中18種目が平均値を超えている。平成24年度と平成28年度を比べると6.2%向上している。肥満傾向や運動能力の低下は、外遊びが制限されてきたことにより、運動習慣が定着していないことも想定されるが外遊びが制限されなくなり、遊具などを使い遊ぶ機会が増えたことが指標向上に寄与したと思われる。(H28市内小学校体力テスト分析結果)

##### (4) その他

平成29年11月10日開催のまちづくり市民懇談会にて、事業の実施状況等について有識者からの意見聴取を実施した。

### 事業計画推進による効果・変化(注2)

○運動広場を利用するスポーツ等において、雨天の場合、団体は各小学校の体育館に使用申請をして利用している状況であった。当該施設の完成により各種スポーツ少年団等による練習日の日程調整が容易になり利用が増えてきた。平成28年度では、小学生以下で2,184人が利用している。市内の岩瀬FC、FCグラート、須賀川リトルリーグや隣接市のスポーツ少年団等が利用している。

### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

○市広報誌等により、未就学児童の利用を促進する。また、屋外での運動や遊びの楽しみ方などを周知し、運動機会の増加により体力の向上を図る。

(注1) 様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

## 個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成26年度	交付対象事業費	42,078 千円
市町村名	須賀川市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	A-1-4

### 1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

- 須賀川市内2箇所の保育所及び幼稚園の遊具7基を更新することにより、特に運動習慣の定着をはかる必要のある時期の子どもたちが、安心して屋外で運動する機会を確保する。
- 市内小学生(1年～4年)における平均肥満傾向児童割合の減少
- 市内未就学児童の運動習慣の定着(外遊び回数の増加)

#### 【区域全体図】

別紙のとおり

プリムラ保育園



杉の子幼稚園



#### <A-1-4: 私立保育所、幼稚園遊具更新事業>

##### 【事業詳細】

##### (1) 事業概要

私立保育所・幼稚園2箇所、遊具7基を更新した。

	整備箇所名	計		整備箇所名	計	
1	プリムラ保育園	3	2	杉の子幼稚園	4	計
						7

##### (2) 事業の実施状況

更新が完了した施設から、園児の外遊びでの使用だけでなく、施設ごとに曜日と時間を決めて園庭を開放し、地域に住む子どもたちも利用できるようにした。・工事期間 平成26年12月8日～平成27年3月23日 ・供用開始 平成27年3月24日

##### (3) 人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

- ・平成22年国勢調査結果による本市の人口が79,267人であったのに対し、平成26年3月時点での人口は77,146人と、この間、2,121人の人口減少となっていた。(出典:統計すかがわ) さらに、平成26年4月時点での市外への避難者数は462人、うち18歳未満が150人と、減少人口の1/3を占めていた。(全国避難者情報システム) ※平成24年10月時点の避難者数:2,037人
- ・平成29年8月時点での市外への避難者数は437人であり、避難者数は減少傾向にある。(全国避難者情報システム)
- ・遊具の利用状況や現在の外遊び時間及び遊具更新前と後を比較した外遊び時間の変化について調査したところ、子ども元気復活交付金を活用し、遊具更新をした遊具を使って遊んだことがある保育園、幼稚園児、小学校児童の割合は82.8%であり高い活用率となった。しかし、外遊び時間については、1時間未満の児童が78.0%となり、全国平均値を下回る結果となった。また、遊具更新後に外遊び時間が長くなった割合は18.4%だが、各施設間で差が生じている。現在、市内全地域において外遊びは制限されており、外遊びや屋外活動メニューを工夫する必要もあると思われる(お子さんの外遊び状況に関するアンケート)
- ・市内小学生における平均肥満傾向児童割合は12.76%で、高学年になるほど肥満割合が高くなる傾向がある。特に小学校5年生男子の肥満率が19.8%と高い値となっている。学年が低いほど良化しており、小学1年から4年生の肥満割合については平成24年度は11.3%だったが、平成28年度は10.8%となった。(H28定期健康診断結果に基づく市町村肥満傾向児童生徒数調査)
- ・小学生の運動能力を分析するTスコアによる全国平均との比較では、48種目中18種目が平均値を超えている。平成24年度と平成28年度を比べると6.2%向上している。肥満傾向や運動能力の低下は、外遊びが制限されてきたことにより、運動習慣が定着していないことも想定されるが外遊びが制限されなくなり、遊具などを使い遊ぶ機会が増えたことが指標向上に寄与したと思われる。(H28市内小学校体力テスト分析結果)

##### (4) その他

平成29年11月10日開催のまちづくり市民懇談会にて、事業の実施状況等について有識者からの意見聴取を実施した。委員からは、さらなる利用促進を継続してほしいなどの意見があった。

#### 事業計画推進による効果・変化(注2)

○遊具を更新した施設でのアンケート調査では、更新前と比べて外遊びの時間が長くなったと回答した保護者の割合が26.8%、短くなったが1.8%、変わらないが68.5%であり、一定の成果が得られていると考える。プリムラ保育園と杉の子幼稚園では約41%の子どもの外遊び時間が増えた。(お子さんの外遊び状況に関するアンケート 平成28年3月4日(金)～3月18日(金)実施)

#### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

○各施設において外遊びの時間を設けるなど、運動習慣の定着を図っているところであり、今後も継続して取り組む。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

# 個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成26～27年度	交付対象事業費	101,064 千円
市町村名	須賀川市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	A-1-5

## 1)事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

- 須賀川市内の小学校11施設において、遊具88基を更新することにより、特に運動習慣の定着をはかる必要のある時期の子どもたちが、安心して屋外で運動する機会を確保する。
- 市内小学生(1年～4年)における平均肥満傾向児童割合の減少
- 市内未就学児童の運動習慣の定着(外遊び回数の増加)

### 【区域全体図】

別紙のとおり

阿武隈小学校



稲田小学校



長沼小学校



### <A-1-5:須賀川市小学校遊具更新事業>

#### 【事業詳細】

##### (1)事業概要

須賀川市内の小学校11施設において、下記のとおり88基の遊具更新を行う。

NO	整備箇所名	計	NO	整備箇所名	計	NO	整備箇所名	計	NO	整備箇所名	計
1	西袋第一小	8	4	阿武隈小	12	7	大東小	10	10	長沼小	6
2	西袋第二小	5	5	仁井田小	8	8	大東小 上小 山田分校	6	11	白方小	8
3	稲田小	8	6	柏城小	8	9	大森小	9		計	88

##### (2)事業の実施状況

工事期間 平成27年3月9日～平成27年8月20日 完成 平成27年8月20日 供用開始 平成28年8月21日 学校の屋外での遊具等を利用した活動は、放射線の不安が解消されてきていることから、震災前の状況に戻っている。

(3)人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

- ・平成22年国勢調査結果による本市の人口が79,267人であったのに対し、平成26年3月時点での人口は77,146人と、この間、2,121人の人口減少となっていた。(出典:統計すかがわ) さらに、平成26年4月時点での市外への避難者数は462人、うち18歳未満が150人と、減少人口の1/3を占めていた。(全国避難者情報システム) ※ 平成24年10月時点の避難者数:2,037人
- ・平成29年8月時点での市外への避難者数は437人であり、避難者数は減少傾向にある。(全国避難者情報システム)

・遊具の利用状況や現在の外遊び時間及び遊具更新前と後を比較した外遊び時間の変化について調査したところ、子ども元気復活交付金を活用し、遊具更新をした遊具を使って遊んだことがある保育園、幼稚園児、小学校児童の割合は82.8%であり高い活用率となった。しかし、外遊び時間については、1時間未満の児童が78.0%となり、全国平均値を下回る結果となった。また、遊具更新後に外遊び時間が長くなった割合は18.4%だが、各施設間で差が生じている。現在、市内全地域において外遊びは制限されており、外遊びや屋外活動メニューを工夫する必要もあると思われる(お子さんの外遊び状況に関するアンケート)

・市内小学生における平均肥満傾向児童割合は12.76%で、高学年になるほど肥満割合が高くなる傾向がある。特に小学校5年生男子の肥満率が19.8%と高い値となっている。学年が低いほど良化しており、小学1年から4年生の肥満割合平成24年度は11.3%だったが、平成28年度は10.8%となった。(H28定期健康診断結果に基づく市町村肥満傾向児童生徒数調査)

・小学生の運動能力を分析するTスコアによる全国平均との比較では、48種目中18種目が平均値を超えている。平成24年度と平成28年度を比べると6.2%向上している。肥満傾向や運動能力の低下は、外遊びが制限されてきたことにより、運動習慣が定着していないことも想定されるが外遊びが制限されなくなり、遊具などを使い遊ぶ機会が増えたことが指標向上に寄与したと思われる。(H28市内小学校体力テスト分析結果)

##### (4)その他

・震災直後は各小学校では、屋外で実施していた運動会を、種目を変更・縮小して体育館で実施するなどの影響が生じていた。震災後3年半が経過した平成26年度においても、放射線物質等への不安から、16校のうち11校が運動会を半日に短縮して実施するなどの状況となっていた。

・小学校の運動会については、放射線等の不安から運動会を短縮して実施することは無くなっている。

・平成29年11月10日開催のまちづくり市民懇談会にて、事業の実施状況等について有識者からの意見聴取を実施した。

## 事業計画推進による効果・変化(注2)

- 事業計画の目標値について達成はできていないが、放射線等の不安が解消されてきていることから、遊具を利用した外遊びについては、震災前の状況に戻っている。
- 遊具を更新した施設でのアンケート調査では、更新前と比べて外遊びの時間が長くなったと回答した割合が14.1%、短くなったが5.2%、変わらないが79.5%であった。外遊び時間の減少により、肥満傾向が増えていることが推測される。

## 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

○今後は、休み時間等の遊具の利用を更に促進し、事業計画の目標値達成を目指す。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

# 個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

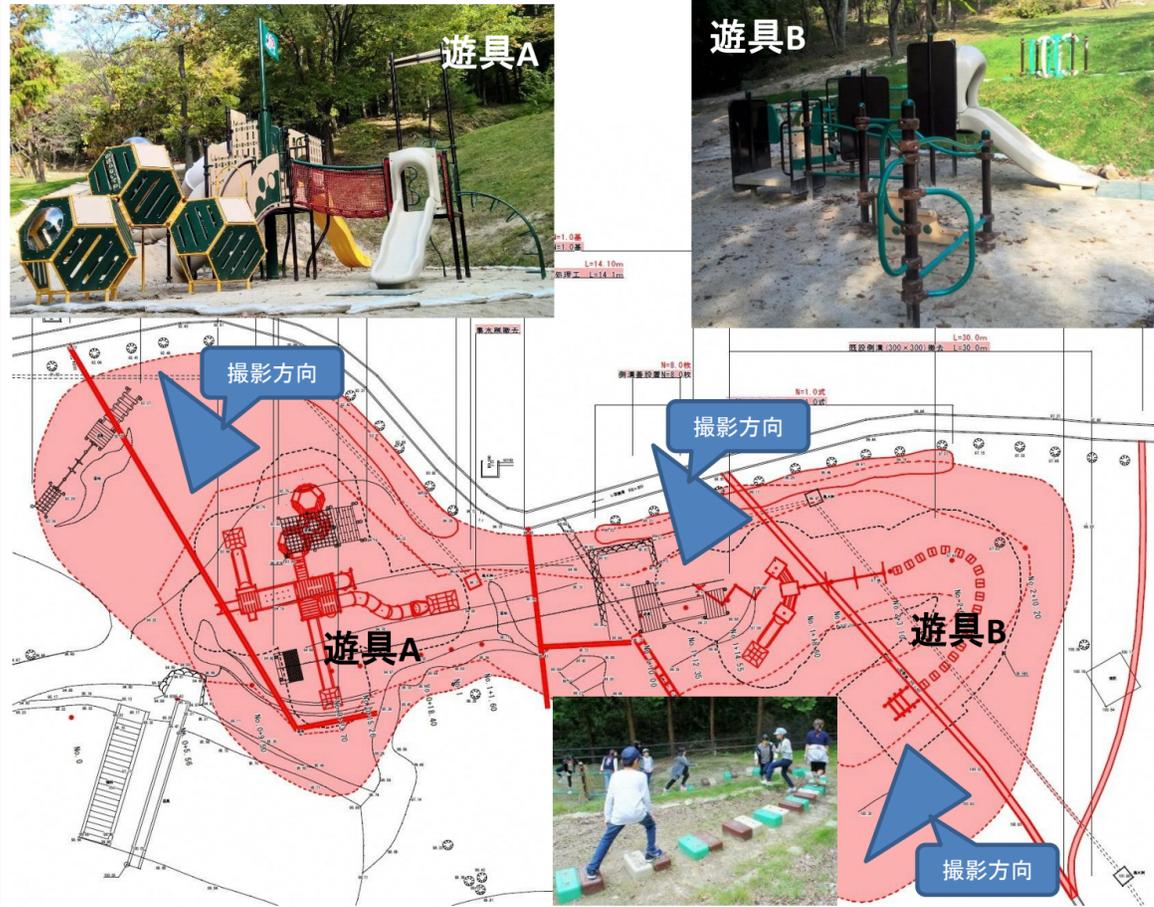
県名	福島県	交付期間	平成26～27年度	交付対象事業費	42,624千円
市町村名	須賀川市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	A-1-6

## 1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

- 須賀川市市民の森のフィールドアスレチック遊具2基を更新することにより、特に運動習慣の定着をはかる必要のある時期の子どもたちが、安心して屋外で運動する機会を確保する。
- 市内小学生(1年～4年)における平均肥満傾向児童割合の減少
- 市内未就学児童の運動習慣の定着(外遊び回数の増加)

### 【区域全体図】



### <A-1-6: 須賀川市市民の森遊具更新事業>

#### 【事業詳細】

##### (1) 事業概要

須賀川市市民の森のフィールドアスレチック遊具2基を更新する。

##### (2) 事業の実施状況

須賀川市市民の森施設内では、本補助金を利用して、遊具更新事業及び運動施設整備事業、運動施設駐車場等整備事業の3つの事業を実施した。また、それに合わせて市費で施設改修事業を実施したことにより、施設全体の利便性が向上したことから、5,000人程度で推移していた年間の施設利用者が平成28年度には6,585人と大きく増加している。

事業期間	完成時期	供用開始時期
H27.3.26～H28.7.30	H27.8.5	H27.8.6

##### (3) 人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

- ・平成22年国勢調査結果による本市の人口が79,267人であったのに対し、平成26年3月時点での人口は77,146人と、この間、2,121人の人口減少となっていた。(出典:統計すかがわ) さらに、平成26年4月時点での市外への避難者数は462人と、うち18歳未満が150人と、減少人口の1/3を占めていた。(全国避難者情報システム) ※ 平成24年10月時点の避難者数:2,037人
- ・平成29年8月時点での市外への避難者数は437人であり、避難者数は減少傾向にある。(全国避難者情報システム)
- ・遊具の利用状況や現在の外遊び時間及び遊具更新前後を比較した外遊び時間の変化について調査したところ、子ども元気復活交付金を活用し、遊具更新をした遊具を使って遊んだことがある保育園、幼稚園児、小学校児童の割合は82.8%であり高い活用率となった。しかし、外遊び時間については、1時間未満の児童が78.0%となり、全国平均値を下回る結果となった。また、遊具更新後に外遊び時間が長くなった割合は18.4%だが、各施設間で差が生じている。現在、市内全地域において外遊びは制限されておらず、外遊びや屋外活動メニューを工夫する必要もあると思われる(お子さんの外遊び状況に関するアンケート)
- ・市内小学生における平均肥満傾向児童割合は12.76%で、高学年になるほど肥満割合が高くなる傾向がある。特に小学校5年生男子の肥満率が19.8%と高い値となっている。学年が低いほど良化しており、小学1年から4年生の肥満割合平成24年度は11.3%だったが、平成28年度は10.8%となった。(H28定期健康診断結果に基づく市町村肥満傾向児童生徒数調査)
- ・小学生の運動能力を分析するTスコアによる全国平均との比較では、48種目中18種目が平均値を超えている。平成24年度と平成28年度を比べると6.2%向上している。肥満傾向や運動能力の低下は、外遊びが制限されてきたことにより、運動習慣が定着していないことも想定されるが外遊びが制限されなくなり、遊具などを使い遊ぶ機会が増えたことが指標向上に寄与したと思われる。(H28市内小学校体力テスト分析結果)

##### (4) その他

平成29年11月10日開催のまちづくり市民懇談会にて、事業の実施状況等について有識者からの意見聴取を実施した。

### 事業計画推進による効果・変化(注2)

- 須賀川市市民の森施設内では、本補助金を利用して、遊具更新事業及び運動施設整備事業、運動施設駐車場等整備事業の3つの事業を実施した。また、それに合わせて市費で施設改修事業を実施したことにより、施設全体の利便性が向上したことから、5,000人程度で推移していた年間の施設利用者が平成28年度には6,585人と大きく増加した。

### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

- 施設の指定管理者と連携して施設の周知を進めるほか、施設の特徴を生かした活動プログラムを検討するなど、さらなる利用者の増加に努める。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

# 個別事業等実績評価シート

平成29年12月時点

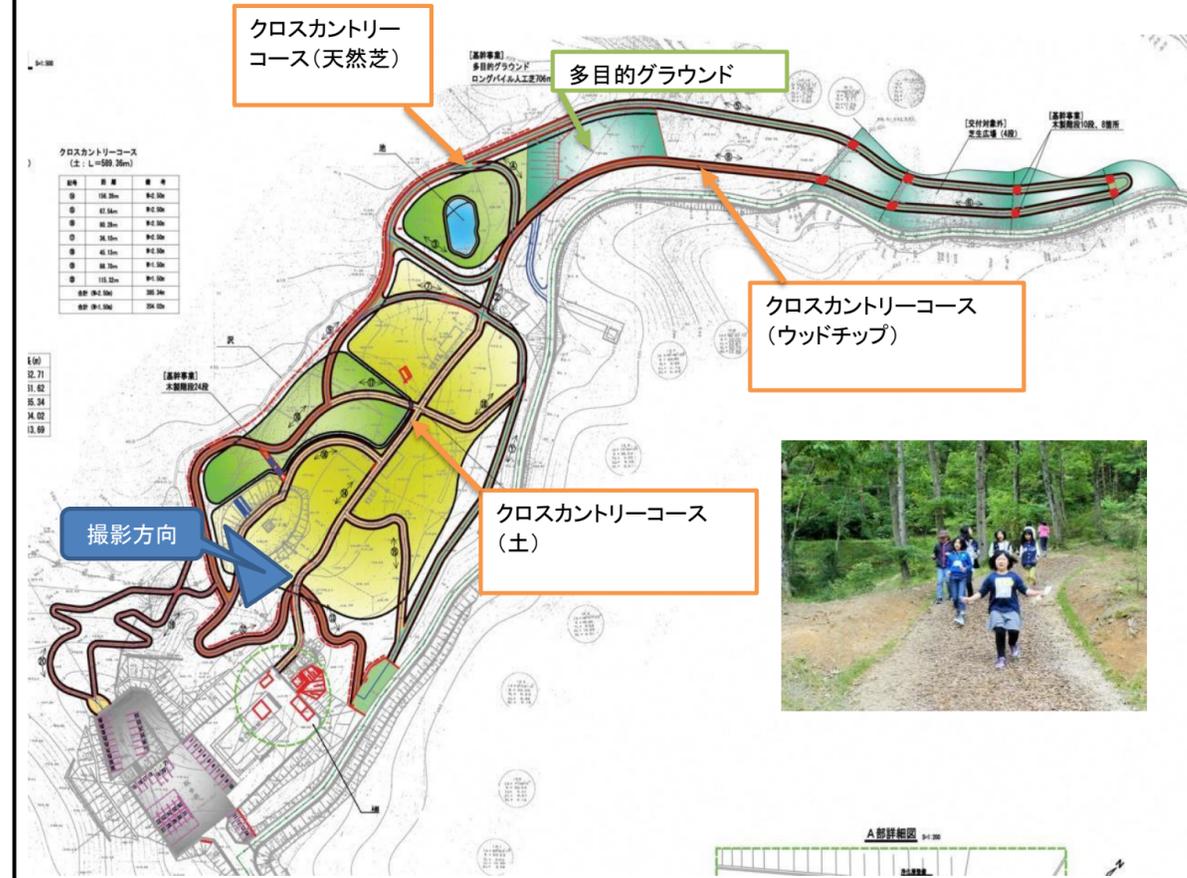
県名	福島県	交付期間	平成26～28年度	交付対象事業費	155,236千円
市町村名	須賀川市	実績評価実施時期	平成29年度	評価対象事業	B-1-4、◆B-1-4-1

## 1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

- 須賀川市市民の森内に運動施設を整備することにより、特に運動習慣の定着をはかる必要のある時期の子どもたちが、安心して屋外で運動する機会を確保する。
- 市内小学生(1年～4年)における平均肥満傾向児童割合の減少
- いわせ悠久の里多目的グラウンド利用者数

### 【区域全体図】



<B-1-4:須賀川市市民の森運動施設整備事業> 【事業詳細】(1)事業概要  
 須賀川市の東部に位置する宇津峰山の一部にある「須賀川市市民の森」の運動施設を改造し、地形や既存施設を有効に活用したクロスカントリーコース及び多目的グラウンドを整備し、子供たちの屋外での運動機会を確保することで、運動不足解消や体力向上を図る。また、さらに利用しやすい環境を整備するため、効果促進事業として、駐車場の改修・拡張工事等の整備を行う。

	<H26年度:第6回申請>		<H27年度:第9回申請>	
	実施設計	9,174千円	実施設計	116,017千円
【基幹事業】			園路整備工事等	116,017千円
B-1-4:須賀川市市民の森運動施設整備事業			天然芝コース	1906.78m
			ウッドチップコース	1154.05m
			土コース	1296.38m
【効果促進事業】	実施設計	2,154千円	駐車場整備工事等	27,891千円
◆B-1-4-1:須賀川市市民の森運動施設駐車場整備事業			木柵工	351m
			案内板	3箇所
合計		11,328千円		143,908千円
			多目的広場整備工事	706.7㎡
			給排水工事	一式
			ソーラー照明灯	7基
				155,236千円

### (2) 事業の実施状況

- ・事業期間 平成27年1月16日～平成28年8月31日 完成時期 平成28年8月31日 供用開始時期 平成28年9月
- ・須賀川市市民の森施設内では、本補助金を利用して、遊具更新事業及び運動施設整備事業、運動施設駐車場等整備事業の3つの事業を実施した。また、それに合わせて市費で施設改修事業を実施したことにより、施設全体の利便性が向上したことから、5,000人程度で推移していた年間の施設利用者が平成28年度には6,585人と大きく増加している。
- (3)人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載
- ・平成22年国勢調査結果による本市の人口が79,267人であったのに対し、平成26年3月時点での人口は77,146人と、この間、2,121人の人口減少となっていた。(出典:統計すかがわ) さらに、平成26年4月時点での市外への避難者数は462人、うち18歳未満が150人と、減少人口の1/3を占めていた。(全国避難者情報システム) ※平成24年10月時点の避難者数:2,037人
- ・平成29年8月時点での市外への避難者数は437人であり、避難者数は減少傾向にある。(全国避難者情報システム)
- ・遊具の利用状況や現在の外遊び時間及び遊具更新前後を比較した外遊び時間の変化について調査したところ、子ども元気復活交付金を活用し、遊具更新をした遊具を使って遊んだことがある保育園、幼稚園児、小学校児童の割合は82.8%であり高い活用率となった。しかし、外遊び時間については、1時間未満の児童が78.0%となり、全国平均値を下回る結果となった。また、遊具更新後に外遊び時間が長くなった割合は18.4%だが、各施設間で差が生じている。現在、市内全域において外遊びは制限されておらず、外遊びや屋外活動メニューを工夫する必要もあると思われる(お子さんの外遊び状況に関するアンケート)
- ・市内小学生における平均肥満傾向児童割合は12.76%で、高学年になるほど肥満割合が高くなる傾向がある。特に小学校5年生男子の肥満率が19.8%と高い値となっている。学年が低いほど良化しており、小学1年から4年生の肥満割合平成24年度は11.3%だったが、平成28年度は10.8%となった。(H28定期健康診断結果に基づく市町村肥満傾向児童生徒数調査)
- ・小学生の運動能力を分析するTスコアによる全国平均との比較では、48種目中18種目が平均値を超えている。平成24年度と平成28年度を比べると6.2%向上している。肥満傾向や運動能力の低下は、外遊びが制限されてきたことにより、運動習慣が定着していないことも想定されるが外遊びが制限されなくなり、遊具などを使い遊ぶ機会が増えたことが指標向上に寄与したと思われる。(H28市内小学校体力テスト分析結果)
- (4)その他 平成29年11月10日開催のまちづくり市民懇談会にて、事業の実施状況等について有識者からの意見聴取を実施した。

### 事業計画推進による効果・変化(注2)

○須賀川市市民の森施設内では、本補助金を利用して、遊具更新事業及び運動施設整備事業、運動施設駐車場等整備事業の3つの事業を実施した。また、それに合わせて市費で施設改修事業を実施したことにより、施設全体の利便性が向上したことから、5,000人程度で推移していた年間の施設利用者が平成28年度には6,585人と大きく増加した。

### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

○施設の指定管理者と連携して施設の周知を進めるほか、施設の特徴を生かした活動プログラムを検討するなど、さらなる利用者の増加に努める。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。